

Vol. 255 「20年前からリフレを主張してきた男衆議院議員山本幸三」
(平成25年5月10日)

正確に言えば、昨年12月初め翌25年の経済はどうなるか予測した月刊誌、著書を十数冊買い集め、年明け動向を読み漁っておりましたが、間もなく衆院選挙に向かって、安倍自民党総裁がアベノミクスを提唱に及んで、円高、株安は選挙前に大逆転をしました。買い集めた本のほとんどはクズ同様になってしまいました。唯一手元に残ったものはアベノミクス理論の柱となった浜田宏一教授の著書「アメリカは日本経済の復活を知っている」、数々の雑誌等にリフレの論陣を張ってきた藤原正彦氏等わずかな著書であります。中でも今更にすごい人だと思ったのは、発行日2010年7月9日発行の「日銀につぶされた日本経済～著書衆議院議員山本幸三～」であります。東大経済部卒、大蔵省、コーネル、ハーバード大学客員研究員、大蔵大臣秘書官、衆議院6期目、現在は日本経済再生本部事務局長、アベノミクスの中心的な人物でありながら大臣になれなかった。極めて政策通であるが、政局観がないと言われた。

山本氏の記録を追ってみますと1993年衆院初当選以来1994年頃から当時の三重野日銀総裁に対して、予算委員会で「91年春から始まった不況は日銀の金融政策に非常に問題があった。表向き公定歩合は下げて金融緩和と唱えながら実際には全く緩和せず、これが不況を更に厳しくしている大きな要因だ。経済理論からすれば財政政策より金融政策の方が有効であり、つまり財政政策では財政支出を拡大してもそれは金利を上昇させ、為替レートを上げる結果となるが、金融政策は金融を緩める事によって金利が下がるので円安となる。この金利の下りと円安効果が経済の回復に大きな相乗効果を生み出すのでこの際金融引き締め解除して大幅な緩和をすべきであります。このままでは中小、零細企業は潰滅してしまいます。」と当時の三重野総裁に厳しく食い下がっております。

また、2002年予算委員会では速水新総裁に「ゼロ金利政策を早く解除したいと発言されるたびに株価が下がり、円高となり、輸出が落ち込んでおります。インフレターゲット、物価安定目標を何故採用しないのか、自信がないなら自信のある人に代わってもらうしかない！」と喝破しております。

2008年予算委員会では、代わった福井総裁に「あなたはデフレ克服に命がけでなさる決意がありますか？これだけ資産価値が暴落している時に何も手を打たない日銀の金融政策はおかしい。長期国債を買う事をどんどん続けて行けば必ずデフレは直ります。買い続けて行くことによってインフレ期待が生ずる…どうもあなたの決心には大変危惧を感じております。」そして更に2010年予算委員会で難産した白川総裁に対しては「あなたの年収は3,492万円、FRBバーナンキ氏の倍です。大阪大の本多教授の実証研究で量的緩和をすれば1ヶ月で株価は上がり、鉱工業生産は2ヶ月で効果が現れる結果が出て新経済の成長目標は名目成長率を3%とするならばインフレターゲットを設定して日銀にしっかり約束されることだ」と厳しく迫っております。

この頃IMFも4%位にする様望んでいたようであります。日本の中小零細企業の復活にはインフレターゲット4%位は必要だと私は思っています。2011年東北大震災の後、山本氏は安倍総裁を会長にして、浜田宏一名誉教授、高橋洋一教授、岩田規久男教授らの論客を中心に理論武装を続け、アベノミクスを実現させた男が、山本幸三氏であります。渡辺喜美もその仲間であります。デフレは物価が下がり、よりたくさん物が買えると思っていたら自分も家族も働く場所が無くなってしまった。家の価値も下がってローンが大変です。孤立社会、買い物難民が増えております。地元企業と行政と協力して『修理・買い物お助け隊』を夏頃の結成を目指して準備計画しております。